

シラチャ校だより

泰日協会学校
シラチャ校

3 | 8 | 09



小学生のうちに身につけておいてほしい学力

中学部主任 岡 浩史

私たち中学教師は、中学生になったお子さんや保護者の方から「小学生のときは、いつも90点以上だったのに、中学生になったとたんに点が下がった。」という悩みを聞きます。中学生になって「面食らう」ことの一つが、総合考査（定期考査）ではないでしょうか。そんな思いをしないようにするためには、小学生のうちに、学習習慣をしっかりと身につけておくことが大切です。

特に身につけておいてほしい学力は、やはり「読み書き」と「計算」です。中学生になると、だんだん学習内容が難しくなります。学習を進めていく中で、「つまずき」を感じる子どもの多くは、この2つの基礎学力が不十分なように感じます。どんなところに違いが出てくるか、国語と数学について少し紹介します。

「国語」で言えば、やはり文章読解の力です。日頃からよく本を読んでいる生徒は、表現力が豊かな上に、語彙力もあるので、すばらしい感想を發表することができます。また文章の中で、作者が一番訴えたいことは何かを、すぐにつかむことができます。

「国語」ではもう一つ、これはあまり知られていないことですが、「高校入試」のとき、「書き取り」問題で出題されるほとんどの漢字が、「小学校時代に習った漢字」であることです。「読み」の問題は、中学校時代に習った漢字が出題されることが多いです。

次に「数学」ですが、「分数と小数」の計算力に差が出るように思います。中学1年生ですぐ習う、「正の数・負の数」の単元で、「分数・小数」の計算が十分に身につけている生徒は、つまずくことなくスムーズに、それ以後の学習内容にも馴染んでいけます。

ここまでお読みいただいて、「うちの子は、大丈夫だろうか?」と思われた保護者の方、ご心配なさいないで下さい。私は日本にいたとき、クラスの生徒に「勉強も貯金と一緒に、蓄えている知識が多ければ多いほど、いざというときに力を発揮する。小学校時代に知識を蓄えていない人は、今から頑張りなさい。やる気になれば、勉強はいつからでもできる。」と話してきました。勉強に「もう遅い・・・」ということは決してありません。「地道にコツコツと学習に取り組む粘り強さ」こそ、一番必要な力だと思います。

お子様を一番間近でご覧になっている、保護者の方が一番悩まれていることと思います。そんなときには、どうぞ遠慮なさらず、私たち教職員にご相談下さい。



中学部総合考査Ⅰの様子（中学部2年生教室にて）